

## は じ め に

地方水試の試験研究のあり方が論議される時代になつて参りました。時代の進展に伴い至極当然のことと思ひます。

試験研究機関でも度々このことについて論議する機会を持っていますが、次のようなことがこれからの試験研究の原点ではないか、ということが畧々一致した見解でした。

1. 現在の漁業を発展に導くための諸研究
2. 現在漁業対象となつている水産物が期待されなくなつた場合に備えての諸研究

の2点に集約されますが、要するに現在と、将来に備えての力の配分となりますので、漁民側から眺めると物足りない面が多いことと思ひますが、減反調整を他山の石としないためにも我々研究者は目的に向つて只ひたすらに邁進しなければならぬと覚悟しております。

昭和46年11月

場 長 馬 場 勝 彦